

2

2006年

組合玄報

NO. 470

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	更なる組合体质の強化を	副理事長 由田 猛	1
役員会委員会	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		3
	工組理事会		4
今月の注目記事「土壤汚染対策問題に関する支部への特別補助金について」			5
	毒劇物取扱者試験講習会案内		7
	めっき技能検定受検案内		8
あなたの予定表	3月の環研・協組集荷日程ほか		9
	平成18年新年賀詞交歓会		10
	訓練校3月授業案内、計報		13
	東京都中小企業団体中央会創立50周年記念		14
	日本鍍金材料協組新年賀詞交歓会		16
	十日会新年会		17
	組合法律顧問のご利用を		18
	東京都VOC対策アドバイザー案内		19
	障害者雇用をご理解を		20
	株ジンカーとセンター研究開発助成金交付決定		22
	共立理化学研究所、日本フィルター(株)		
	表協総会及び各賞授与式		24
	表協「総合表面技術博覧会」		25
	METEC'06表面処理材料総合展出展社募集		26
ピック・アップ	メッキ加工を廃止ほか		28
	石川進造展「旅のスケッチ万華鏡Ⅱ」		30
	都内中小企業の事業資金に関する調査結果		31
支部シリーズ	大田支部の巻「日独もし戦わば」	石川貞行 (大田支部)	32
お気にいり散歩道「権 八」		板倉富美子 (城南支部)	36
支部通信	大田支部、中央支部、城南連合支部		37
	中小企業の景況		40

—更なる組合体質の強化を—

副理事長 由田 猛



先ず以って「平成 18 年度 12 支部合同新年賀詞交歓会」におきましては、組合員皆様のご協力によりまして盛大にそして和やかな内に新年会が開催出来ました事に対し、実行委員長として心より感謝申し上げます。

今回が 2 年目という事もありまして、事務局は経験を生かして余裕を持って準備に当って頂き、実行委員会も 12 支部長が委員を構成して頂きまして、副実行委員長には小沢総財務委員長に、幹事には池田、篠根両常任理事、並びに若山、遠藤両支部長に成って頂きまして、安心してお願いする事が出来ました。本当にお世話になり有難う御座いました。多少残念な事は、国会議員の先生方が、他の会合とか、海外遊説と重なって殆んど出席頂けなかった事でした。

しかしながら今年は大村理事長が、全鍍連並びに東京都中小企業団体中央会の会長として、初めて東京組合の大きなイベントでご紹介出来ました事は、大変意義のある新年会であった事と合わせまして、東京組合の代表として活躍して頂いております事は、我々組合員の誇りと致す処であります。

また昨年の「組合広報」12 月号に、姫野副理事長の「全鍍連財政改革を断行」と言う記事が掲載されました。大村全鍍連会長の女房役として総務委員長を引き受けられ、当面の大きな課題であります財政改革に取り組まれ、経費節減に大鉈を振るっておられます。

必要によっては賦課金の値上げも検討されております。健全な全鍍連運営を進めて行く上で必要な施策に対しましては、東京組合がその趣旨を良く理解し、率先して協力して行く事が必要だと思います。東京組合は一番大きな組織を抱え、また日本の中心地に存在している組合としての使命かと思います。全鍍連は経済産業省管轄下にあり、行政との円滑なる情報交換、交渉窓口として、業界全体の利益に繋がる要望を訴えて行く為の組織体として全鍍連組織は必要だと思います。

さて、東京組合につきましては、昨年はめっきセンターの修復工事に大きな費用が掛かり、収益を圧迫致しましたが、今期は大きな出費も無く、現在の処順調に推移致しております。

然しながら、組合脱退者は少なく成ったとは言え、未だ続いておりまして、出資金の受け皿対策につきましては、今後の大きな検討課題の一つとして残っております。また組合脱退者が残念ながら今後共続きますと、各支部の見直しや支部の統合と言う問題が出てまいります。大村理事長より将来に向けてこの大きな課題について検討するようとの諮問を受けております。

支部の統合となりますと、それぞれの支部の歴史風土、やり方の違いもあり、どことどこの支部が統合すると一番スムーズに行くかについて、色々すり合わせや調整作業が必要かと思います。

将来的にどれ位の規模の組合組織が妥当かどうかは今のところ分かりませんが、ショミレーションもしながら時間を掛けて一つ一つ実績を積み上げて行けば、何れは纏った組織体が構築出来、体質の強い組合運営が出来るものと考えております。

どうぞ今後共組合員皆様のご理解とご協力を宜しくお願ひ致します。

大村理事長日誌



1月

5 日(木)都中央会関係都庁年始回り

6 日(金)都中央会賀詞交歓会

正副理事長都庁年始回り

日本鍍金材料協組賀詞交歓会

10 日(火)愛知組合賀詞交歓会

12 日(木)全鍍連関係で経産省訪問

組合賀詞交歓会(目黒雅叙園)

13 日(金)神奈川中央会賀詞交歓会及び

50周年記念式典

16 日(月)神奈川組合賀詞交歓会

17 日(火)東京都高齢者雇用開発協会理事会

及び賀詞交歓会

18 日(水)全鍍連常任理事会・理事会

20 日(金)相談役仁平氏の通夜

22 日(日)十日会賀詞交歓会

23 日(月)都中央会打合せ

24 日(火)埼玉組合賀詞交歓会

30 日(月)日刊工業新聞社インタビュー

～組合・関連団体行事予定～

3月 1 日(水)正副理事長会

会(名古屋)

3月 2 日(木)全鍍連広報委員会

4月 4 日(火)訓練校入校式

3月 7 日(火)全鍍連国際委員会

広報委員会

3月 8 日(水)全鍍連環境対策委員会

4月 5 日(水)正副理事長会・理事会

基金年金説明会

4月 19 日(水)監事会

3月 9 日(木)環境委員会

4月 20 日(木)環境委員会

全鍍連技術委員会

全鍍連総務委員会

基金年金説明会

4月 25 日(火)城北支部総会

3月 10 日(金)健保組合理事会

4月 26 日(水)正副理事長会・理事会

3月 14 日(火)全鍍連近代化促進委員会

監事会

3月 15 日(水)十日会総会

表協 SURTECH&Coating Japan(28日迄)

健保組合組合会

5月 19 日(金)日本硬質クロム工業会関東

3月 16 日(木)全鍍連若手経営者座談会

支部総会

3月 17 日(金)訓練校修了式

5月 26 日(金)正副理事長会・総代会

3月 24 日(金)訓練校素養調査

5月 29 日(月)全鍍連常任理事会・理事会・

3月 25 日(土)日本鍍金協会第 45 回年次大

総会

工組 第5回 理 事 会

平成 17 年度決算見込み承認

と き 平成 18 年 2 月 8 日(水)
午後 6 時 30 分～8 時

と こ ろ めつきセンター4階会議室

出席者 大村、姫野、由田、川上
八幡、青木
中澤、高倉、志田、篠根
小澤、神谷、池田、半田
遠藤、西田、小橋、莉宿
高橋、若山、小谷野、藤田
原、佐藤、池田、吉川
宮川、今泉、高松、木下
斎藤、永田、細井、小倉
菊池、広根、石田、山田
岡本、西原、柴
(監事) 新井、柏村、平野、石川

青木専務理事が定足数を満たしていることを報告、大村理事長が開会の挨拶の後、議長となり、議事録確認者として、中央支部長の木下好雄理事、足立支部長の永田一雄理事を指名し、議事に入った。

1. 平成 17 年度月次予算実績管理表

青木専務理事が、損益計算書等に基づいて、12月までの実績、達成率などについて、事業収益の達成率 84%、中でも環研分析事業収入が順調に進捗している。事業費の執行率 68%、一般管理費の執行率 75% 等で、全体として順調に推移していることを報告した。

監査報告

石川進造監事から、1月 26 日午後 3 時から由田副理事長立会のもと平成 17 年度 10～12 月の第3四半期の会計監査を実施した。会計監査のため会計に関する帳簿、書類を閲覧し、計算書類について検討を加え、必要な実査、立会、照合



及び専務理事から報告の聴取、その他相当の方法を用いて調査した。その結果、指摘事項はなく、貸借対照表、損益計算書は法令及び定款に従い組合の財産及び損益の状況を正しく表示していると認めた、と報告した。

2. 平成 17 年度決算見込み

青木専務理事が、12 月までの実績と前年度実績同様の1月～3月までの見込み、合わせた通期での予算執行率、特に前年度と異なるものは前年度の大型修繕に対して、今期は室内塗装工事の予定と下記の特別予算などについて説明し、了承された。

3. 土壤汚染対策問題に関する支部への特別補助金について

工業組合は、土壤汚染対策に関して行政援助をお願いする平成 18 年度東京都予算に対する要望を行ってきたが、東京都予算案(知事原案)に「土壤汚染対策の促進」が盛り込まれることとなり、組合の要望が一歩前進することになった。原案の内容は「小規模企業等における土壤汚染対策が円滑に実施されるための仕組みづくりを検討する」として 800 万円を計上している。そのため、組合としては、本年度の特別事業として各支部において土壤汚染問題に対して組合員講習会・勉強会（又は上記「仕組みづくり」に関する都への要望のとりまとめを含む）を実施していただき、特別予算を申請する。

教育情報事業費(環境委員会)土壤汚染講習会 1 支部当たり 80,000 円

以上青木専務が説明し、承認された。

4. 城東式分析器用試薬値上げについて

昨年 11 月 14 日に仕入先から同試薬販

売価格値上げの連絡があり、12 月 1 日から新販売価格を開始したことを報告した。

5. 新規組合員の加入について

城西支部・(株)ゴールドスマス(古藤田哲哉社長)の平成 17 年 12 月 1 日付加入について承認した。

6. めつきセンタービル室内塗装工事について

めつきセンター4 階、2 階、地階室内の塗装工事の見積り((株)日立ビルシステム・総額 294 万円)について承認した。

7. 組合員異動について

加入 4 社、脱退 22 社、変更 13 社、現組合員数 489 社を承認した。

(報告事項)

1. 新銀行東京との連携について

工業組合員に対して次の融資について事務手数料が割引優遇される。

ポートフォリオ：一般融資事務手数料 21,000 円(消費税込み)、優遇手数料 2,100 円

技術力・将来性：一般融資事務手数料 31,500 円(消費税込み)、優遇手数料 12,600 円

融資希望社は工業組合事務局から組合員である確認書の発行を受けて提出する。

「技術力・将来性」は将来の経済活性化の源となる各産業分野で、新商品の開発、新事業の展開など努力されている企業を対象として、本年度第 4 回の募集を行う。従来の財務型審査方法に加えて技術力・事業性を重視して外部専門家が客観的に評価を行う。融資額は当初の 1 億円から 3 億円に増額し、期間は最長 7 年。

2. 毒劇物取扱者試験講習会について
別掲のとおり開催することを報告した。

3. ほう素、ふつ素等の排水濃度調査の最終集計報告について

全鍍連から依頼のあった「ほう素」「ふつ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」「亜鉛」使用組合員の排水濃度調査について、平成17年秋期は、春季の29%の回答率をはるかに超える68.6%の回答率を得たこと、組合員の協力に謝意を表する報告をした。

4. 平成18年新年賀詞交歓会出席者及び収支報告について

1月12日の賀詞交歓会出席者336名及び収支報告を承認した。

5. めつき技能検定受検の案内について
別掲のとおり開催することを報告した。

6. 年間行事予定について

2月8日現在から5月29日全鍍連総会までの組合行事予定を報告した。

7. 高等職業訓練校の募集状況について

募集人員50名に対して、2月7日現在、50名の応募に達したことを報告した。

八幡副理事長から、2月4日の技能照査実技試験の実施状況について説明があった。

8. その他

藤田品川支部長から、城南支部と品川支部の統合に向けて準備を進めているが、今年の本部総代会で統合の承認を頂き、来年には1つの支部として統合するので役員数等の調整をお願いしたいと要望があった。大村理事長は、本理事会終了後

に支部統合検討委員会を開くので細かいことはそこで検討してほしい。総代会までには理事会もあり、それまでにしっかりと対応していきたいと説明した。

篠根常任理事から、昨日支部役員会があり、さきの本部賀詞交歓会は組合員の懇親と政治的効果の目的もあったが、都議会の先生は大勢見えたが、国会の先生は1人ということで、当初の目的が達せられないのではないかとの意見があったとことを報告した。

大村理事長は、当初小池環境大臣をはじめ国会の先生方は出席予定であったが、急きよ海外への出向くことになり、来られなくなったことは反省しなければならない。出席した全鍍連副会長からは高い評価を頂いていると説明した。

実行委員長の由田副理事長から、国会の先生方が見えなかったことは実行委員会でも反省を含めて検討したいと説明した。

神谷常任理事から、全鍍連の運営状況について質問があり、大村理事長が厳しい財政状況とその対応策などについて説明があった。

最後に由田副理事長は、この後、第2回の支部統合検討委員会があるが、将来東京組合が安定運営できるようにしてほしいとの理事長の方針である。残念ながら組合脱落者が続いており、将来組合が安定運営できるよう前向きに検討していくと閉会の辞を述べ、工業組合理事会を終了した。

平成18年1月

各 位

毒物劇物取扱者試験講習会のご案内

東京都鍍金工業組合

平成18年度の東京都毒物劇物取扱者試験が7月上旬頃に予定されております。

当組合では、試験対策講習会を実施する予定ですので、受験を予定されている方は、是非受講されるようご案内申し上げます。

なお、下記の要領で行う予定ですので、受講をご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、下記の宛先に郵送又はFAXにて申込み下さいますよう宜しくお願ひ申し上げます。

記

1. 講習日程

回 数	期 日	時 間	科 目	講 師
第 1回	4月 12 日 (水)	18:00~21:00	基礎化学・物理	志賀孝作
第 2回	4月 19 日 (水)	〃	基礎化学・物理	
第 3回	5月 10 日 (水)	〃	基礎化学・物理	
第 4回	5月 17 日 (水)	〃	法 規	斎藤弘幸
第 5回	5月 24 日 (水)	〃	法 規	
第 6回	5月 31 日 (水)	〃	法 規	
第 7回	6月 7 日 (水)	〃	各 論	長嶋政人
第 8回	6月 14 日 (水)	〃	各 論	
第 9回	6月 21 日 (水)	〃	各 論	
第10回	6月 28 日 (水)	〃	まとめ	

※なお、工業高等学校又はこれと同等以上の学校で応用化学に関する学科を修了した方は「毒物劇物取扱責任者」の資格があるので受験する必要はありません。

2. 講習会場 めつきセンター4階会議室(所在地:文京区湯島1-11-10)

3. 講 師 組合環境科学研究所職員

4. 受講料金(テキスト代を含む) 第1回目の講習日にお支払ください。

組合員 20,000円

訓練生 15,000円

員 外 25,000円

5. 定員 45名

(但し、申込者が少ない場合は、講習会を中止する場合もございますのでご了承ください。)

6. 申込締切日 平成18年3月24日(金)

7. 申込先 東京都鍍金工業組合 事務局

所在地 〒113-0034 文京区湯島1-11-10

電 話 03(3814)5621 FAX 03(3816)6166

*申込者が複数になる場合は、申込書をコピーして使って下さい。

ご不明の点がありましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

めっき技能検定受検のご案内

東京都鍍金工業組合

平成18年度の技能検定(前期)めっき1級・2級・3級が下記のとおり実施されます。受検希望の方は受検申請書等を送付しますので、下記によりお申込下さい。

特級技能検定は平成19年2月頃に実施されますので、ご希望の方は今回の受検希望に合わせてお知らせいただければ、平成18年9月頃に受検申請書をお送りいたします。

技能検定とは、職業能力開発促進法に基づき、生涯をとおしてそれぞれの段階で、受検者の皆さんのがもつている技能の程度を一定の基準によって検定することにより、皆さんの技能が一層みがかれ、又、皆さんの社会的・経済的地位の向上を図ることを目的とした国家検定制度です。この技能検定は、特級・1級・2級・3級に区分し、それぞれ学科試験と実技試験とによって実施します。技能検定に合格した者には、特級・1級は厚生労働大臣名の、2級は東京都知事名の合格証書と技能士章が交付され、職業能力開発促進法に基づいて「技能士」と称することができます。

1. 試験要領

・実技試験 期日：平成18年7月下旬

(課題説明会 平成18年7月初旬)

会場：めっきセンター（文京区湯島1-11-10）

概要：1級 次に掲げる作業試験を行う。（試験時間：約3時間）

- (1) 鋼板にニッケル・クロムめっきをする。
- (2) 鋼板に亜鉛めっき・クロメート処理を行う。
- (3) 不調めっき液を分析調節し、ハルセルテストを行う。

2級 次に掲げる作業試験を行う。（試験時間：約1時間55分）

- (1) 鋼板にニッケル・クロムめっきをする。
- (2) 鋼板に亜鉛めっき・クロメート処理を行う。
- (3) 酸及びアルカリの中和滴定を行う。

3級 次に掲げる作業試験を行う。（試験時間：約35分）

- (1) 鋼板にニッケルめっきをする。

※ 試験内容・時間については変更もあります。

・学科試験 期日：平成18年8月予定 会場：未定

2. 受 檢 料	実技試験 15,700円	学科試験 3,100円
3. 運 営 費	組合員関係者(試験器具使用・排水処理費用等)	6,000円
	組合員外	12,000円
4. 受検資格 受検案内にてご確認下さい。		
5. 資格免除 試験の免除（めっき学校で技能照査合格の方は、2級学科試験免除）		
6. 受検受付 受検申請書、事業運営費、資格免除(合格証書)の証明書等をご提出下さい。 ＊東京都職業能力開発協会は平成18年4月4日(火)～14日(金)まで。 ＊東京都鍍金工業組合では3月13日(月)～4月12日(水)まで受け付けます。 ＊特級技能検定試験申込の方も合わせてお申し込みください。		

(平成18年9月まで随時受付中)

7. 申込方法 受検ご希望の方には、受検案内、受検申請書を送付しますので、組合事務局まで申込んで下さい。ご不明の点があればお電話下さい。

問い合わせ先 東京都鍍金工業組合 事務局総務課

電 話：03（3814）5621 F A X：03（3816）6166

3月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	水	正副理事長会		城東支部	
2	木		大田支部	城北支部	全鍍連広報委員会
3	金			葛飾支部	
4	土				
5	日				
6	月		品川支部・大田支部	中央支部	
7	火			目黒・世田谷地区	全鍍連国際委員会
8	水		城南支部		全鍍連環境対策委員会
9	木	環境委員会	城西支部	足立支部	全鍍連技術委員会
10	金			葛飾支部	健保理事会
11	土				
12	日				
13	月		城西支部・城北支部	西部支部	
14	火				全鍍連近代化推進委員会
15	水		中央支部・本所支部	品川地区	十日会総会、健保組合会
16	木		向島支部		全鍍連若手経営者座談会
17	金	訓練校修了式		葛飾支部	
18	土				
19	日				
20	月				
21	火	春分の日			
22	水		西部支部	向島支部	
23	木			本所支部	
24	金	訓練校素養調査	城東支部・葛飾支部	葛飾支部	
25	土				日本鍍金協会年次大会
26	日				
27	月			蒲田・大森地区	
28	火		葛飾支部	城西支部	
29	水				
30	木		足立支部		
31	金			葛飾支部	

(役員会・委員会は変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

東鍍工組・公防協組・各支部合同 平成18年新年賀詞交歓会

東京都鍍金工業組合、東京鍍金公害防止協同組合、12支部合同の平成18年新年賀詞交歓会は、1月12日(木)午後6時から目黒雅叙園で来賓、組合員350名以上が出席して盛大に開催された。

実行副委員長の小澤栄男常任理事の司会により、実行委員長の由田猛副理事長は「12支部合同の賀詞交歓会は昨年に続いて2年目である。総財務正副委員長並びに12支部長が実行委員会となり準備を進め、そして大勢のご来会を頂いてこのように盛大に開催できたことを感謝申し上げる」と開会の挨拶をした。

大村功作理事長は「あけましておめでとうございます。昨年は緩やかながら景気回復がはかられたと言われ、年末には紀宮様のご結婚という明るいニュースもあった。また“愛・地球博”が開かれ、そのテーマである環境問題が大きくクローズアップされた。私ども業界にとって



(由田実行委員長)



(大村理事長)

も地球温暖化防止やオゾン層保護という大きなテーマではないが、環境負荷の高





い薬品を使用している関係から環境問題の重要性の認識がより高まっている。昨年11月の全鍍連第43回全国大会において、環境との共生、地球にやさしいものづくり、世界に誇れるめつき業というスローガンを採択して、環境問題に取り組むことにした。我々業界は昭和40年代から環境問題に取り組んできたが、環境対策には大きな経費がかかることがある。特に土壤汚染については、土壤調査に大きな費用がかかり、その上場面によっては土壤浄化にどのくらい費用がかかるのか計り知れないものがある。組合は東京都に対して土壤調査や浄化技術の低コスト化の推進や、中小零細企業に対する財政支援をお願いしている。低コスト化は環境局の開発促進策により低価格で短期間に調査、浄化が出来る技術が民間業者によって開発されつつある。しかし低価格と言えども私ども中小零細業者にとってはその負担すら難しいのが現状である。土壤汚染対策法が平成15年に施行され、それ以前はなかったものが施行と同時に

規制の対象となった。しかも我々が汚染したものでなく汚染原因が不明なものまで土地の所有者や使用者に責任を課す厳しい規制である。分かりやすくたとえると、昨日まで双方向の道路が今日から一方通行になり、昨日逆走したことを取り締まるのと同じことではないか。東京組合は昨年末、土壤汚染に対するアンケート調査を行った。その結果、調査費、改良にかかる費用に対して公的な助成がない限り不可能であるという意見が70%を超えた。現在、国や自治体の財政状況が厳しいと言われるが、中小企業に対する特別の配慮からして財政支援をお願いしたい。いずれにしても我々としては前向きに環境問題に取り組んでおり、国や自治体に対して支援をお願いしていきたい。排水規制に関しては、ほう素ふつ素の暫定基準が後1年半で期限切れになる。また、水生生物の保護から亜鉛の規制強化が問題となっているが、我々としてはその動きを注意深く見守っていきたい。新年を迎えて、決意を新たにし、当組合が



(海老名顧問の乾杯音頭)



取り組む4つの課題、環境問題、人材育成、新技術の開発、情報化の推進を執行部、組合員、事務局が一丸となって推進し、この1年が良い年となるよう頑張って参る所存で、みなさんの温かいご支援をお願い申し上げる」と年頭の挨拶をした。

来賓として、保坂三蔵参議院議員、東京都産業労働局商工部・中井敬三部長、都議会自民党鍍金振興議員連盟会長・大西秀男都議会議員が振興議連議員の紹介とともに挨拶、都議会民主党・中村明彦幹事長、都議会公明党・石井義修幹事長は同党議員の紹介とともに挨拶、関係団体として全国鍍金工業組合連合会・鈴木喜代壽副会長、日本鍍金材料協同組合・間宮勝理事長、埼玉県鍍金工業組合・吉田勇理事長から挨拶を頂き、池田敏則常任理事が来賓紹介、川上洋一副理事長の閉会の辞をもって第一部式典を終了した。

第二部懇親会は、篠根健一常任理事の司会により、姫野正弘副理事長の開宴の

辞、各界代表者に登壇を頂いたなかで海老名平吉顧問が祝杯の音頭をとった。なごやかな歓談のなか、小池百合子環境大臣等の祝電披露、12支部長の紹介などが行われ、定刻、八幡順一副理事長の閉宴の辞をもって懇親会を終了した。



Message

新年あけましておめでとうございます。「新年賀詞交歓会」のご開催にあたり心よりお慶び申し上げます。内外共に山積する課題を抱えての年明けとなりましたが、組合の皆様のご尽力を賜りながら、大きな舞台から大胆にこの国の再生、新生に取り組んでまいります。会のご盛会と皆様の今年一年のご健勝をお祈りいたします。

Koike Yuriko

Member, The House of Representatives JAPAN

環境大臣、沖縄・北方担当大臣
衆議院議員 小池 百合子

(小池環境大臣の祝電)



(各支部長の紹介)

3月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金)			授業時間(A:14:00~17:00 C:17:00~20:30)		
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)	講 師
3	金	C	実技(基本4)	硬さ試験、表面粗さ測定、光沢度測定、硝酸ばつき試験など	上原 環研
7	火	C	実技(基本5)	各班毎に下記項目の試験及び測定。 1)耐磨耗性試験、中性塩水噴霧試験。 2)はんだぬれ性試験、粘着テープ密着試験。 4)亜硝酸ばつき試験、各種の膜厚計による めつき厚さの測定	吉本 環研
10	金	C	実技(基本6)	自由実験	水元 環研
14	火	A	皮膜試験③ (めつき法)	皮膜試験実技の結果について、品質の判定及び評価法等。 東京都鍍金工業組合環研 志賀孝作	
17	金		17:00~修了式		

訃 報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

西 登喜雄氏(石川組合・小松電気化学工業(株)西登茂一社長のご尊父)1月14日死去、92歳。告別式は17日午前11時から小松市のセレモニーホールコマツ斎苑小松本館で行われた。喪主は登茂一氏。

仁平皓三氏(向島支部・株仁平鍍金工業所会長、組合相談役)1月18日肺炎のため死去、84歳。告別式は21日午前11時から東向島のキタムラセレモニーホールで行われた。喪主は令夫人の久子様。仁平氏は昭和54年から東京都鍍金工業組合理事を務めたのをはじめ昭和62年から平成4年まで常任理事、平成5年から相談役に就任し、組合運営に尽力された。



豊田金司氏(足立支部・有)トヨダ電鍍会長・豊田金造社長のご尊父、組合相談役)1月22日死去、80歳。告別式は27日足立区西綾瀬の長性寺で行われた。喪主は金造氏。豊田氏は昭和62年から平成4年まで東京都鍍金工業組合監事を務め、平成9年から相談役に就いて組合運営に尽力された。



矢吹正幸氏(東北表面処理工業組合専務理事)

2月11日午前11時53分死去、68歳、葬儀は15日午後1時から仙台市の泉葬祭会館清月記で行われた。喪主は令夫人の歌子様。

東京都中小企業団体中央会創立 50 周年記念 盛大に挙行 都知事感謝状、中央会会長表彰授与

東京都中小企業団体中央会(大村功作会長)は2月1日(水)午後1時30分から丸の内の東京国際フォーラムで会員組合関係者約1100人が出席して盛大に創立50周年記念式典を挙行した。

同中央会は昭和31年に設立、記念式典では東京都知事感謝状(28団体、団体役員286名、団体職員32名)の授与、同中央会会長表彰(組合功労者146名、優良専従役職員33名)、同会長特別表彰(中央会功労役員17名、中央会事務局役職員23名)の授与を行った。また記念事業の一環として3月に「50年史」の刊行を予定している。

記念式典は、実行委員長の関野修治副会長の開会の辞にはじまり、国家斉唱、中小企業の歌斉唱、物故者に対する黙祷のあと、大村功作会長は「本日ここに都中小企業団体中央会の創立50周年記念式典がかくも盛大に開催できたことは東京都をはじめとする関係諸官庁のご指導、会員組合、さらに関係各位の温かいご支援の賜物であり深く感謝申し上げる。また公務ご多忙のなか閔谷副知事をはじめご来賓多数のご臨席を賜り錦上花を添えて頂き厚くお礼申し上げる。永年にわたり中小企業並びに組合の発展にご尽力を頂き表彰の栄に浴された





方々に対して衷心より祝意を表すとともに、今後益々のご健勝でのご活躍を祈念申し上げる。さて、中央会制度は昭和30年に協同組合等の支援専門機関として法制化され、本中央会はその翌年1月に創立された。以来50の歳月が経過し、その間中小企業の組織化と組合の支援に全力を上げてきた。この半世紀、日本経済は戦後の復興期から高度成長期を経てドルショック、オイルショックを乗り越えてきたが、バブル経済崩壊後の長期不況を経験し、最近はグローバルスタンダードへの適応や規制緩和による競争の激化、さらに情報技術の急展開への対応など、依然として予断を許さない状況が続いている。こうした中で本中央会は組合活動を通じて中小企業の生き残りと振興発展にいささかでも寄与できたものと自負している。しかしながら現在のように激変する経営環境の中にあって組合に求められる役割は多様化し、組合の共同事業もつねに見直しを求められているが、私ども中央会は中小企業経営にとって引き続き組合は極めて重要な存在との確固たる認識のもとに中央会創立の原点に立ち返り、従来にも増してきめ細かな事業を展開し、会員組合からの要望に応えてその責任を果たして参りたいと改めてお誓い申し上げたいと思う。今後ともみなさんにはご指導ご鞭撻をお願い申し上げる。なお、記念事業の一環として本日の式典の模様を掲載した50年史を3月初めに刊行する。記念史が組合並びに中小企業の活性化にいささかなりともお役に立てて頂ければ幸いである。終わりに組合並びに中小企業の繁栄と本日ご参集のみなさんのご健勝を心からご祈念申し上げる」と式辞を述べた。

次いで表彰式に移り、東京都知事感謝状、中央会会長表彰がそれぞれ代表者に授与された。東京都鍍金工業組合からは都知事感謝状4名、会長表彰7名が受賞された。

東京都知事感謝状

間部健太郎、高倉利守、神谷博行
菊池忠男

東京都中小企業団体中央会会长表彰

由田 猛、八幡順一、中澤敏明
小倉攻一、柏村一志、平野普三雄
石川進造

来賓として、関谷保夫都副知事、江崎格商工組合中央金庫理事長から祝辞があり、森田弥一副会長の閉会の辞で式典を終了した。引き続き第二部記念演奏会として、東京都交響楽団員によるクラシック、民謡、歌謡曲などの演奏会が1時間行われ、記念行事を終了した。



■日本鍍金材料協同組合

新年賀詞交歓会

日本鍍金材料協同組合(間宮勝理事長)は、1月6日(金)午後6時から品川のホテルパシフィック東京で平成18年新年賀詞交歓会を開催した。

大原啓司常務理事の司会により、はじめに間宮理事長は「おめでとうございます。昨年は暗いニュースが多かったが、その世相をあらわす漢字に“愛”が選ばれたというのも、ささやかながら“愛”を感じさせる出来事が印象に残ったためと思われる。せめて2006年は本当の意味で“愛”にあふれた1年になってほしいものである。さて、昨今の経済状況は、私どもめつき業界では、一部に好調な企業も見受けられるが、多くの企業では景気回復の兆しを実感するには至っていないのが現状と思われる。このような状況下で、当組合においては、現在のところ、“鍍金の世界”“めつき手帳”表面処理機材カタログ“マテリアル”などの各事業は当初の予定通り推移しており、また、昨年、当組合が単独で取り組んだ表面処理機材総合展“METEC'05”も、お蔭様で当組合が目指した“業界の情報交換と交流の場”として役割を果たすことができ、赤字も出さず、本年以降の開催に対する自信と方向性を見出すことができた。これ偏に組合員並びに賛助会員の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げる。なお、本年は、5月25日～27日までの3日間、第36回表面処理材料総合展・METEC'06を開催する。特に、今回は、昨年、新たに企画・実施した“材料商コーナー”を充実させ、各材料商が取引先の来場を積極的に推し進めるべく準備計画中である。現在、“材料商部会”において、METECへの積極的な参加取り組みに知恵を絞っており、出展各社とともに、業界の“情報交換と交流の場”としての意義付けを図っていきたい。



また、本年度“材料商部会”において、METECへの参加取り組みに合わせ、部会員相互の親睦・情報交換のためのゴルフ会の立上げ、また、海外研修会等の実施も企画中である。その節は、是非とも積極的な参加・協力をお願いしたい。本日は時間の許す限り、親しくご懇談頂くようお願い申し上げる」と年頭の挨拶をした。

来賓紹介の後、来賓を代表して、東京都中小企業団体中央会会长・全鍍連会長・東京都鍍金工業組合の大村功作理事長が「昨年の全鍍連全国大会で環境との共生を採択したが、環境問題が重要な課題である。材料メーカーのみなさんには環境に優しい材料の提供、また我々の取り組みについてご協力をお願いしたい」と挨拶。久力鴻治事務局長が賛助会員を紹介した後、賛助会員を代表して住友金属鉱山(株)表面処理担当の河野雅彦課長がニッケルの動向等について挨拶、前理事長の小松康宏常務理事の乾杯音頭で祝宴に入った。懇親会は鈴木厚生常務理事の中締めまでなごやかに進められた。



■十日会

新年会

十日会(斎藤晴久会長)は1月22日(日)正午から六本木・ゲートタワー内「LESTASI(レジスタ)」で会員家族41名が参加して新年会を開催した。

レジスタは六本木ヒルズの一角にあり、新進気鋭の人気シェフが腕を振るうイタリアンレストランである。

石川英孝幹事の司会により、はじめに斎藤会長は「あけましておめでとうございます。昨日は大雪となり、今日はどうなるのか心配したが、本日は元気なみなさんとお会い出来て嬉しく思う。昨年の大晦日に報道の佐藤英男さんが不慮の事故で亡くなられた。これまで当会の活動にご協力を頂き大変残念であり、ご冥福をお祈り申し上げる。昨年は建築関係で耐震強度偽装が社会問題となつたが、我々もの作りに携わる一人として、お客様には本物を届けて報酬を頂き、社会に貢献して行くことが当たり前だが、しっかり心に刻んでやつていかないと世界の企業と闘つていけないと改めて強く思った。今年はイタリアのトリノで冬季オリンピックがある。6月にサッカーのワールドカップがドイツで行われるが私はスポーツ好きで楽しみにしている。選手は夢と理想をもって五輪に出場するが、スキーアルペン回転競技で新潟の皆川賢太郎選手は膝の靱帯を断ち、選手生活もだめかとあきらめかけたが、強い夢をもって復帰し、先日のワールドカップで

は4位の成績を残した。夢や理想への強い思いがそのパワーを出したのではないかと思う。今年はそういう強い思いをもって進んでいきたいと思っている。今年1年みなさんが夢や理想に近づくなり、実現できるような年になることを祈念する」と挨拶をした。

来賓として大村功作理事長は「ただいま斎藤会長から素晴らしいスピーチがあり、私は短くお願ひごとを申し上げたい。昨年の全鍛連全国大会で環境との共生を探査したが、環境問題では、環境対策にお金がかかり、めつき単価に上乗せすることが難しいことなどを訴えていきたい。特にこれから問題となる土壤汚染問題については積極的に訴えていきたい。今期全鍛連会長を務めているが、全鍛連が財政的にピンチに立たされており、この問題を解決していくかなければならない。また、これから全鍛連をどう運営していくべきか、どういう要望があるのか、みなさんから色々な意見を聞かせて頂きたい」と挨拶した。

八幡順一元会長(副理事長)の乾杯音頭で懇親会に入り、イタリアン料理に舌鼓を打ち美味しいワインを頂きながら歓談が続いた。またアトラクションのゲームを楽しみ、定刻、山田英佐夫元会長の中締めにより終了した。



組合法律顧問のご利用を

東京都鍍金工業組合では、弁護士の先生と顧問契約を締結し、平成17年4月から法律顧問として委嘱しました。先生の氏名、連絡先、略歴、利用方法等は下記のとおりで、組合員の皆様のご利用をお待ちします。

〔氏名〕弁護士 中本源太郎

〔連絡先〕〒173-0004 東京都板橋区板橋2丁目62番5号
林ビル102号

東京板橋法律事務所 TEL03-3963・6171
FAX03-3963・6172

〔略歴〕昭和24年6月29日生

昭和48年3月東京大学法学部卒業

昭和51年5月弁護士登録(東京弁護士会所属)



〔顧問業務の概要〕

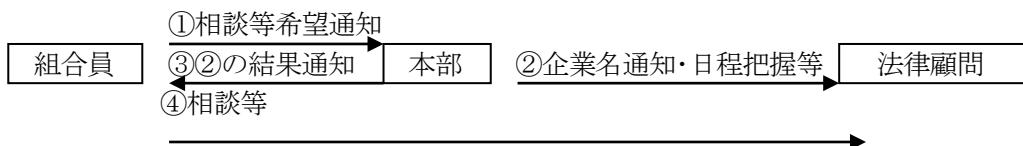
組合は、その業務上生じる法律問題及び組合員の直面する法律問題につき、法律顧問に対し、電話、面談による法律相談、法律問題の鑑定依頼、法律紛争発生の場合の交渉並に訴訟案件の委任をすることとし、法律顧問は、出来るだけ優先的にこれに応じ、法律相談、個別の交渉、訴訟案件を受任する。

法律相談料は無料とし、法律問題に関する鑑定意見書の作成、交渉、訴訟の委任については、双方その都度協議の上、費用の金額を定める。

〔利用方法〕

- ①組合員の方が法律相談等を希望される場合は、まず、組合本部事務局へその旨ご連絡下さい。(相談内容をお知らせいただく必要はありません)。
- ②本部より顧問の先生に連絡をとり、組合員企業名等を通知し、必要があれば、先生が相談等を受けるのに都合のよい日時等を把握します。
- ③本部より相談等を希望された組合員に上記の②の結果をお知らせします。
- ④組合員より、電話、面談等により、直接、顧問の先生に相談等を行います。

以上の利用方法を図に示すと次のようになります。制度の適正・円滑な運用を期するため、ご面倒でも、組合本部を通してご利用くださいますようお願いいたします。



事業所を訪問し対策を助言する

東京都VOC対策アドバイザー

がご相談に応じます。

東京都環境局

派遣依頼のあったVOCを取り扱う都内の中小企業に対してVOC対策アドバイザーを派遣します(無料)。

VOC*は、光化学スモッグの発生や浮遊粒子状物質の生成の原因となることから、東京都はVOC排出削減に向けた取組みを実施しています。このたび東京都は中小企業のVOC排出量削減に向けた自主的な取組みを支援するため「VOC対策アドバイザー」を派遣する制度を開始しました。

*VOC : 揮発性有機化合物(Volatile Organic Compounds)の略で、トルエンのように、揮発しやすい有機化合物の総称です。

◇派遣対象 原則として、資本金3億円以下又は従業員数が300人以下で、VOCを取り扱う企業(印刷工場、塗装工場、めっき工場等)

◇助言内容 現場でVOCの簡易測定を行い、工程の改善、原材料の転換、回収・処理装置の設置、融資制度の紹介等を行います。

◇派遣手続 対策意欲のある企業からの依頼に基づき、審査の上アドバイザーを派遣します。

詳細はホームページを

ご覧下さい。

VOC対策アドバイザーの派遣を依頼するには

1. 派遣のご相談 まず有害化学物質対策課にお電話下さい。

2. 依頼書の記入 派遣依頼書をダウンロードして下さい。

3. 依頼書を郵送 有害化学物質対策課に郵送して下さい。

派遣決定の通知文が到着したら…

4. アドバイザーへ連絡 アドバイザーと訪問日時を調整して下さい。

社内で助言の内容を検討してから…

5. アドバイザーの訪問 アドバイザーが簡易測定し助言します。

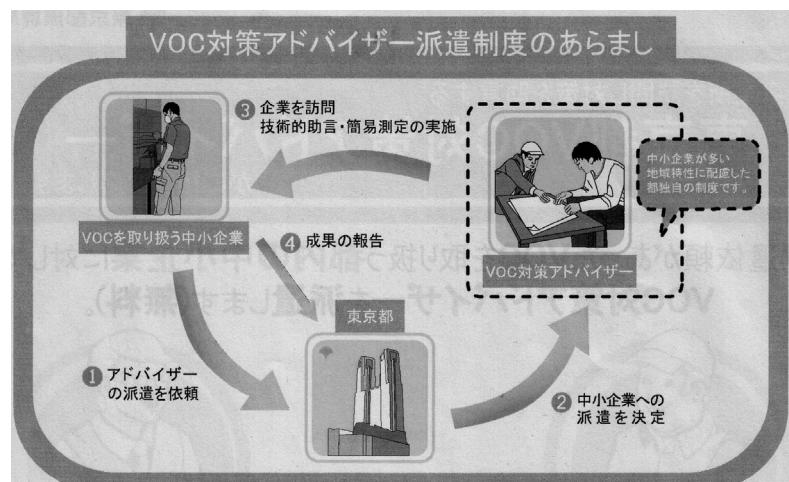
6. 成果報告書の提出 対策方針が決まったら、速やかに報告して下さい。

問い合わせ先

東京都環境局 環境改善部 有害化学物質対策課 企画係

〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1 直通 03-5388-3503 FAX03-5388-1376

<http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/chem/voc/index.htm>



障害者雇用にご理解を！

「障害者求人」のお願い

国立・都営 東京障害者職業能力開発校

事業主の皆様へ

当校は、一般の技術専門校で訓練を受講することが困難な身体障害者と軽度の知的障害者の方を対象とした職業訓練施設です。

障害者の能力に適応する知識及び技術・技能を習得させ、職業的自立を目指し、社会及び経済の発展に貢献できる人材の育成を目的としています。

訓練科目により、修了生の年齢、職業経験、求職条件等、様々ですが、いずれの生徒も訓練に真剣に取り組み、技術・技能を身につけ職業意欲に溢れています。

貴社で活躍できる人材が数多く修了しますので、採用につきましては特段のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。



(校舎)



(情報実習風景)

東京障害者校の生徒

平成 16 年度では、198 人の入校生のうち 81.3% が就職しています(平成 17 年 5 月末現在)。一般事務で就職していく者が多い中、訓練科の専門性を活かしてシステムエンジニアやプログラマー、CAD 設計、社内印刷物作成、経理事務等の職務についていく修了生もいます。知的障害者を対象とした実務作業科修了生は清掃や製造の補助、事務補助等の職務についています。

障害者を雇用される場合、次のような各種支援制度があります。

特定求職者雇用開発助成金
障害者作業施設設置等助成金
税制上の優遇措置など

求人の手続は下記の通りです。

最寄りのハローワーク(公共職業安定所)へお願いします。

東京障害者職業能力開発校修了生とご指定ください。

ご不明な点などございましたら、当校へお気軽にお問い合わせ下さい。

所在地：小平市小川西町 2-34-1(最寄り駅：西武国分寺線小川駅)

電話：042-341-1411

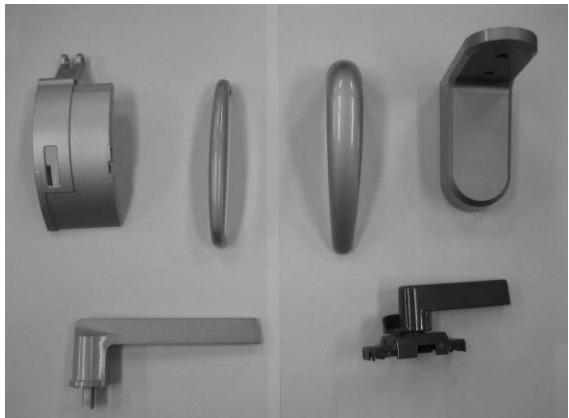
ホームページ：<http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/school/handi/index.html>

城西支部・(株)ジンカートセンター

横浜市研究開発助成金交付決定

(株)協和の関係会社・(株)ジンカートセンター（黒澤弘幸社長、横浜市港北区綱島東5-10-10、TEL045(531)4241、資本金 24,000,000 円、従業員 20 名）は、横浜市中小企業研究開発助成金に、従来六価クロムの技術を用いて実用化したジンカート表面処理を、今回、RoHS 規制などに対応した三価クロムにより亜鉛ダイカスト製品にジンカート処理を行うことを開発したのに伴い、「三価クロムによる亜鉛ダイカストの高耐食性表面処理の実用化」で申請書を提出、審査の結果、1月 17 日付で交付が決定したことを発表した。また、2月 1 日(水)より 3 日(金)までパシフィコ横浜で開催された第 27 回工業技術見本市テクニカルショウヨコハマ 2006 でこの研究開発成果が紹介された。

基本となる化成処理は三井金属鉱業から技術導入し、亜鉛ダイカスト・アルミダイカスト製品を独自の化成処理で高耐食性と独特な装飾感を持った被膜を形成する表面処理技術で、その特性は従来のめっき、塗装を凌ぐ点も多く、建築、機械、電気、自動車などのダイカスト製品に適用され、「ジンカート処理」の呼称のもと、その装飾感と耐食性の優れた表面処理として各業界から品質評価を得ている。



最近の WEEE、RoHS 規制に対応するために六価クロムなどの特定有害物質を用いない表面技術が、特に電気、自動車関連メーカーから要望されるようになり、又、サッシメーカーよりサチライトめっきは品質が安定しないため、サチライトめっきに近いカラーと同等位の品質が出せないかとの要望があり、このために、同社では電気亜鉛めっきの防錆に利用されている三価のクロムからなる化成処理を導入し、これを亜鉛ダイカスト製品に適用する処理方法を研究、また、アルミニウムダイカストについても同様な要望があり、その対応も並行研究した。

亜鉛ダイカストに対する最適な硫酸系前処理と三価クロム処理液の最適処理条件（温度、処理時間など）の研究により、六価クロム処理液とほぼ同等な耐食性と良好な塗装皮膜密着性が得られることを基本的に把握した。塗装方式としても、新規導入した自動塗装機の使用によりごみなどの塗膜欠陥の大幅減少と塗料原単位低減の目安も得て、コスト的にも従来法と遜色ない結果が得られる目処を得た。皮膜性能は、CASS 試験、クロスカット試験、衝撃試験、熱水浸漬試験などの過酷な条件にもほぼ耐える可能性を得つつある。既に某精密電気部品メーカーからの要望により、亜鉛ダイカストのコネクタ

一部品を同三価クロム処理による表面処理品を量産試作により納入したが、特性上の問題もなく、今後の受注増が要望され、処理規模の拡大が要請されるなど今後の市場の展開を期待している。また、同技術の付帯効果として、三価クロム処理は従来の六価クロム処理が褐色だったのに対し、殆ど無色に近い化成皮膜となるので、白色、或いはメタリック系銀色の塗装も容易なことが見出され、特にメタリック系塗装は、一般のサチライトめっきの代替えとして建築部品業界から早急な実用化が望まれている。アルミニウムダイカストについても、現在Mn系の非六価クロム処理を試験中である。



共立理化学研究所 大田区新製品・技術コンクールで奨励賞受賞

東京都大田区と大田区産業振興協会は「第 17 回大田区中小企業新製品・技術コンクール」の入賞製品・技術等 10 点を決めた。その中で、㈱共立理化学研究所(岡内完治社長)の「デジタルパックテスト」が奨励賞を受賞された。デジタルパックテスト(単項目水質計)はパックテスト等を反応試薬として使用する小型軽量の水質計で測定結果がデジタルで表示(mg/L)される。検水は 1.5mL。なお表彰式は第 10 回おおた工業フェア(大田区、大田区産業振興協会、大田工業連合会主催／2 月 16 日～18 日／大田区産業プラザ)の初日 16 日午前 10 時半から同会場で行われた。

日本フィルター㈱創立 50 周年

日本フィルター㈱(橋本ひろみ社長)は昨年 11 月 15 日をもって創立 50 周年を迎え、本年 4 月 12 日(水)午後 4 時 30 分から横浜市西区みなとみらいのヨコハマグランドインター・コンチネンタルホテルで取引先等に感謝の意を表する祝宴を催す。併せて、現在建築中の新社屋が 3 月末日完成する運びとなり、祝宴に先立って、新社屋を披露する。

表協総会及び各賞授与式

(社)表面技術協会(高谷松文会長)は第57回通常総会及び各賞授与式を、2月27日(月)午後3時から千代田区麹町の弘済会館で行う。総会では第56期事業報告、第56期会計報告、第57期事業計画、第57期収支予算、第57期役員、評議員選任、名誉会員推薦、顧問変更などを審議決定する。

総会後平成18年度表面技術協会(協会賞・功績賞・論文賞・技術賞・進歩賞・技術功労賞)授与式を行う。受賞者は次の通り。

[1] 協会賞 業績:ドライプロセスによる機能性薄膜・表面の創製と応用 高井治(名古屋大学エコトピア科学研究所副所長 教授)

[2] 論文賞

(1)論文:熱延鋼板の内部酸化層が冷間圧延後の再結晶焼鈍時における Si,Mn 表面濃化挙動に及ぼす影響 鈴木善継、京野一章(JFEスチール株式会社研究所)
(2)論文:ゾル・ゲルコーティング/アノード酸化による Al-Nb 複合酸化物皮膜の形成 渡辺恵司(北海道大学大学院工学研究科 現:(財)電力中央研究所)、坂入正敏、高橋英明(北海道大学大学院工学研究科)、永田晋二(東北大学金属材料研究所)、平井伸治(室蘭工業大学)

[3]技術賞

(1)技術:高密度用超小型磁気ヘッドの開発研究と実用化 逢坂哲彌(早稲田大学理工学部応用化学科)、高井まどか(東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻)、大橋啓之(日本電気株式会社基礎・環境研

究所)、斉藤美紀子(早稲田大学ナノテクノロジー研究所)溝下義文、越川誉正(富士通㈱ストレージプロダクト事業本部)
(2)技術:シリカオルガノゾルを耐圧向上剤として使用したアルミ電解コンデンサの開発

玉光賢次、辻達紀、小澤正(日本ケミコン㈱基礎研究センター)、宇恵誠、武田政幸、佐藤智洋(㈱三菱化学 科学技術研究センター)

(3)技術:アルミニウム合金の耐摩耗性の向上、ならびに異種金属、合金間の溶接性改善を目的とした表面処理技術の開発 及川涉、竹内栄一、宅見章、善林智範、石川祥久(日本プレーテック㈱)、小室文稔(㈱ムロコーポレーション)、樋沢均(㈱日本テクノ)

[4] 進歩賞

(1)業績:電気銅めっきの電流波形制御によるビアフィリング 小山田仁子(関東学院大学大学院工学研究科)

(2)業績:微細構造を制御した機能化固体潤滑膜の開発 野城淳一(日本工業大学大学院工学研究科)

[5] 技術功労賞 今井正敏(新日本製鐵㈱※㈱日鐵テクノリサーチへ出向中)、金田健治(住友金属工業㈱)、高本泰(住友金属工業㈱)三浦泰彦(新日本製鐵㈱)

[6] 功績賞 (1)小林賢三(慶應義塾大学名誉教授)、(2)山崎龍一(㈱日本システムエンジニアリング)

あらゆる産業の根幹を支える表面技術の先駆者

(社)表面技術協会が関連6団体とコラボレートで開催する

SURTECH&Coating Japan2006 総合表面技術博覧会

(社)表面技術協会は、2005年4月に、第1回目を開催し大好評を得たSURTECH&Coating Japan2006を2006年4月26日(水)～28日(金)の3日間、東京流通センターで開催する。

誰もが知りたい先端技術から、すぐにでも活用できる従来技術まで、来場者が来て良かったと思う表面技術のめっき、塗装・塗料、熱処理、アルマイドなどあらゆる産業を支える企業の展示される。SURTECH2006のテーマは「要素技術最前線 先端表面技術の創出」。出展企業は勿論、同協会関連団体のオーソリティが、研究技術の結晶をあらゆる角度から発表する講演会とのコラボレートにより、充実したものとなっている。特に特別展示は、『高密度半導体パッケージを実現する表面技術』のテーマで、来場者が感嘆する企画もあり、また、第8回先端表面工学国際会議を「表面工学フロンティア2006」と題してアジア各国を中心として世界の表面処理技術に携わる研究者及び技術者が一同に会する。現在も準備が着々と進んでおり、SURTECH2006が世界に最たる表面技術の集いに多くの人々の参集を見込まれている。

1.名称 SURTECH&Coating Japan2006

2.開催日時 平成18年4月26日(水)～28日(金)

3.会場 東京流通センター(大田区平和島)

4.企画 ①特別展示:「高密度半導体パッケージを実現する表面技術」種々の材料を複合的に使用した半導体パッケージにおいて、その構造を達成し信頼性を確保する各種表面技術について解説及び技術展示を行う。②特別講演会:開催テーマに関連した実行委員会企画講演会③技術講演会:出展企業による製品・技術の紹介、解説④部会講演会:表面技術協会傘下の各種部会による講演例会⑤各種セミナー:特別協賛団体等が企画する講演セミナー⑥ユーザー情報コーナー:ユーザー企業の表面処理にかかる諸情報を発表する⑦ポスター発表コーナー:企業・大学・研究機関の研究成果⑧主催者・特別協賛団体コーナー:技術相談・情報開示などを行う⑨情報交換掲示板:出展企業、来場者が自由に書き込みをして情報交換を行う⑩表面処理加工コーナー:最新の加工技術の発表⑪書籍販売コーナー:表面技術関連の書籍の販売

5.展示規模:90社、180小間(予定)

6.来場者数:18,000名(予定)

7.来場対象者:自動車・電気・電子・情報・通信など幅広い業種の設計・開発技術者、販売営業担当者、めっき・塗装・熱処理などの表面処理関連業者、生産従事者、官公庁・大学・試験研究機関及び諸団体の関係者

8.出展対象:めっき関連業種、塗料・塗装関連業種、熱処理・表面硬化関連業種、ドライプロセス・表面改質関連業種、環境保全・安全対策関連業種、試験・検査・研究・指導関連業種、官公庁・大学・試験研究機関及び諸団体、その他表面処理に寄与する関連業種

9.同時併催・国際会議:名称:表面工学フロンティア2006(第8回先端表面工学国際会議)

日時:平成18年4月25日(火)～26日(水) 会場:東京流通センター・Fホール

内容:アジア諸国を中心として世界の表面処理技術分野に携わる研究者及び技術者が一同に会し、意見交換と相互の親睦を深める。

問合せ先(社)表面技術協会「SURTECH&Coating Japan2006」実行委員会

電話 03-3252-3286 URL <http://www.surtech-sfj.jp>

METEC'06 第36回表面処理材料総合展 出展社募集

会期 2006年5月25日(木)～27日(土)

会場 東京流通センター(TRC)

主催 日本鍍金材料協同組合

ME TEC実行委員会

協賛 全国鍍金工業組合連合会



(METEC'05の会場風景)

日本鍍金材料協同組合(間宮勝理事長)主催、全国鍍金工業組合連合会(大村功作会長)協賛の第36回表面処理材料総合展「METEC'06」は、本年5月25日(木)から27日(土)まで大田区平和島の東京流通センターで開催するが、その出展社を募集している。

同総合展「METEC」は、“顔の見える取引”をコンセプトに表面処理関連材料を一堂に集め、需要先である表面処理加工業者ならびにその発注先であるユーザーとともに交流と商談の場を提供する目的で開催するもの。電子情報機器、家電機器、自動車製造機器などあらゆる産業の根幹を支えるめっきおよび電子基板を中心とする表面処理の製品、プロセス、システム、最新技術などを一堂に集約して展示するとともに、めっき材料業界における会員組織の情報発信、最新動向発信、交流などを通して、表面処理に関わるすべての方々にご活用いただることの出来るスペースを提供し、表面処理業界のステージアップに寄与しようというのが大きな特色である。

具体的な出展対象展示品は、めっき、アルマイド、塗装、塗料、溶射、気相、真空めっき、エッチング、フォトリソグラフィー、プリント配線板、熱処理、化成処理、硬化、環境保全、除害、保安などの薬品・材料・装置関係に加えて、表面処理を施した製品、加工技術などの展示、宣伝など加工専業者の技術に関するもの。また、表面処理関係の試験・検査・研究用機器、機材および試験・検査・研究の受託などの展示。表面処理コンサルタント業務、OA、FAなどを含む表面処理に関するコンピュータ・情報処理関連技術などである。

また、表面処理業界における注目される技術製品などをピックアップして紹介する特別展示コーナーでは、「環境に配慮した表面処理」をテーマに、表面処理業界全体として取り組むべき課題、動向などを最新情報や具体的な事例、製品などを展示する。「加工品コーナー」では、表面処理プロセッサーが自信をもって紹介する技術や製品(部品、実装など)を展示する。

さらに、「環境に配慮した表面処理」をテーマに、主催者による特別講演と、出展各社による新技術、新製品を紹介する「技術講演会」、その他、出展者と来場者の商談などで自由に交流できる「交流の場」、来場者からの技術や製品の相談を受ける「技術・製品相談コーナー」、液晶テレビ、デジタルカメラなど豪華賞品をスピード抽選により進呈する「ラッキープレゼントコーナー」、表面処理関連の書籍・資料を集めた「書籍販売コーナー」、また出展会社の製品や技術資料を掲載した「資料ガイド」の無料配布なども企画されている。

出展料は、間口2970mm×奥行2970mm×高さ2700mmの1小間が231,000。

資料ガイド掲載料は、B5判1頁52,500円、2頁94,500円。
技術講演料は、50分で63,000円。

出展要項

■出展料と資料ガイド掲載料

出展料:1小間(間口2970×奥行2970×高さ2700mm)=231,000円(消費税込)+資料ガイド掲載料

資料ガイド掲載料:B5判1頁=52,500円(消費税込) B5判2頁=94,500円(消費税込)

なお、出展料と資料ガイド掲載料はセットになっており、どちらか一方だけの申し込みはできない。

■展示小間の規格

(1)小間スペース 間口2970mm×奥行2970mm×高さ2700mmのサイズのみになる。

(2)小間タイプ 小間はシステムパネルを使用する。システムパネルは塩化ビニールコーティング合板(4mm)を使用する。システムパネル部材は、パネル板、ポール、ビームなどを使用する。

隣接する他の出展会社との境界には、間仕切壁(バックパネル、袖パネル)を設置する。ただし、角位置の小間の場合は、通路側の間仕切り壁は設置しない。間仕切り壁はシステムパネル(白色)を使用。

(3)ダブル小間 限定8社。

小間装飾

■パッケージベース

小間図に示す基礎小間は、主催者の負担で施工するが、出展会社は基礎小間以外に小間装飾及び照明器具を取り付けることができる。小間装飾については、出展会社の便宜と経費の低減を図るため、次のような規格化された「パッケージベース」を用意した。

(1)スタンダードプラン 1小間 W2.97×D2.97×H2.70m・パラペット(白)H300mmシステムパネル仕様・社名板天地150mm角ゴシック体シート文字付・カーペット(ノンスリープ)付好みの色を選択する・インフォメーションカウンター白色、中棚付W900×D450×H800mm1台・パイプ椅子(折りたたみ式一脚)・貴名受(アクリル製1個)・蛍光灯40W1灯 ブース工事一式=94,500円(消費税込)

(2)スタンダードプラン 2小間 W5.94×D2.97×H2.70m・パラペット(白)H300mmシステムパネル仕様・社名板天地150mm角ゴシック体シート文字付・カーペット(ノンスリープ)付好みの色を選択する・インフォメーションカウンター白色、中棚付W900×D450×H800mm1台・パイプ椅子(折りたたみ式一脚)・貴名受(アクリル製1個)・蛍光灯40W2灯 ブース工事一式=136,500円(消費税込)

METEC'06への出展申込み、技術講演会への講演申込み締切り日は3月15日。

出展申込み・問合せは、METEC 実行委員会事務局(〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-13-8 日本鍍金材料協同組合内 電話03-3666-2416 FAX03-3666-3114

「Plama Net」ホームページ<http://www.plama.or.jp/>まで。

ピック・アップ

メッキ加工を廃止

(日刊工業新聞 06.1.9)

小糸製作所は3月までに、国内主力工場の静岡工場(静岡市清水区)でのメッキ加工を終了し、外製化に切り替える。低稼働率部門を閉鎖することで、経営資源の効率化を図るのが狙い。年間1億円弱の保守・保全費用を省くほか、空きスペースを有効活用し、効率的な生産につなげる。

メッキ工程の現在の稼働率は「ピーク時の5%程度」(大嶽隆司社長)と低い。自動車用照明器の製造において、メッキの代替として蒸着化が進んでおり、メッキ加工の終了を決めた。今後メッキでの受注に関しては、すべて外注で対応する。

S P F名古屋市近郊に新工場

(日刊工業新聞 06.1.13)

S P F(名古屋市瑞穂区、高安彰社長)は、07年度内をめどに名古屋市近郊に新工場を建設、稼働する。化学プラント用の耐食金属の需要の増加などに対応するためで、既存の名古屋市内の4工場を集約し、物流、製造の効率化を図る。総投資額は6億円。

同社は特殊金属の加工業者で、鉄などの金属母材に薄板の高耐食金属を張り付ける技術「サンゼットR」が主力。化学プラントの反応槽や蒸留塔、火力発電所の煙突などの内壁材として需要が増加している。建設を予定している新工場は敷地面積6000平方㍍を予定。搬入、加工、搬出のための作業スペースを十分に確保

し、現在の4工場の設備、人員を効率的に配置する。これにより、歩留まりと生産能力の向上を図る。

光ファイバーに金メッキ

(日刊工業新聞 06.1.16)

ヒキフネ(葛飾区、石川輝夫社長)は、光ファイバー上に電気メッキにより金メッキを施す技術を確立し、量産体制を整えた。現在普及しているスパリタリング方式に比べて生産コストを抑えられるほか、手作業で仕上げるために小ロット注文への対応も容易としている。メッキする範囲を幅2ミリ以内で指定でき、メッキ膜厚も0.1マイクロ—5マイクロで対応する。

ヒキフネは約800万円を投じて専用ラインを構築した。月間1万本の光ファイバーにメッキできる。需要次第で増産体制を整える。金メッキを施すことで光を減衰、增幅、変調させる光デバイスと、光ファイバーを固定させる部分のハンダ接合が可能になる。

ハンダの漏れ性が高い金メッキを採用することで、ステンレスやニッケル・コバルトの合金で製造されることが多い光デバイスとの密着性が高まるとしている。接着剤で固定する場合に比べて耐熱性が上がるという。

光デバイスは光ファイバーの接続部分に使用され、「直径0.125ミリ程度の光ファイバーを1マイクロ以内の誤差で接続させる必要がある」(ヒキフネ)ため、固定部分の密着性が重要視される。

まず、光ファイバーを被覆している樹脂を除去し、表面を洗浄。その後、光ファイバーに特殊な薬液を塗り、前処理を施す。その上にニッケルメッキで下地処理を行う。

これにより、ガラス上にも電気メッキ

で金メッキすることが可能になるという。全数検査後に出荷する。多芯光ファイバーにも対応する。

黒色三価クロム処理 10 倍に拡大

(日刊工業新聞 06.1.23)

浜岡鍍金工業所(大阪府東大阪市、浜岡康夫社長)は、自動車や家電向けなどの黒色三価クロムによる化成被膜処理量を現在比約 10 倍の月間数百㌧に増やす。05 年 1 月に処理ラインを 2 ライン導入したのに続き、同年末にも黒色三価専用ラインを増設しており、同設備のフル稼働などで対応する。三価クロム処理設備の増強に加え、社内に開発チームを設け、技術開発や排水処理施設の環境向上などを図り、受注体制を強化する。

同社は 7 月から欧州特定有害物質規制(RoHS)の施行で従来の六価クロムによる化成被膜処理が使用禁止になるのを控え、自動車や家電メーカーの三価クロム処理への移行に伴う受注増を見込んでいる。高品質の三価クロム処理ができるメッキ業者は少ない。新たに三価処理を始めた業者も完成品メーカーの監査や承認に対応できるところは限られており、同社は適応できなかった他業者の振り替え需要が増えているという。同社は三価クロム処理専用ラインやベーキングラインを本格的に整える関西で数少ないメッキ業者。全体のメッキ処理量は月間 3500 ㌧。うち三価クロム処理は 3 分の 1 に達し、05 年の同受注量は前年比約 6 倍と右肩上がりに増えている。

液晶ガラス基板から インジウム回収プロセス確立

(日刊工業新聞 06.2.2)

アクアテック(大阪市此花区、大西彬聰

社長)は、液晶表示装置(LCD)ガラス基板からインジウムを回収するプロセスを確立した。インジウム・スズ酸化物(ITO)薄膜から高純度のインジウムを回収するもので、2 月末にも評価用の試作機を完成させる。希少金属のインジウムは値動きが激しいものの、ガラス基板から回収するのは珍しいという。06 年度にも事業化する。

三価クロム被膜処理ライン導入

(日刊工業新聞 06.2.3)

ワイ・エー・ピー(福島市、柳沼克己社長)は、全自動亜鉛メッキ装置を更新し、三価クロムの化成被膜処理対応ラインを導入した。投資額は約 1 億円。今回の設備更新で、処理能力は 40% アップする。これにより、全自動亜鉛メッキの従来の 1 ラインを含め、欧州特定有害物質規制(RoHS)への対応を終えた。

同社は金属プレス加工の柳沼プレス工業のグループ会社。亜鉛メッキ加工専業で、自動車部品や電機部品の量産ものを得意とする。導入した設備は幅 6×長さ 27 メートルのラインで、ワンハンガー 30kg まで吊せる。「これまでのラインがワンハンガー 15kg だった。今後は 20kg 程度の自動車部品の量産ができる」(伊藤幸二常務)としている。

亜鉛メッキ加工業界では RoHS の本格スタートに向けて六価クロム処理が規制され、三価クロム処理への転換が進んでいる。同社は新規受注の拡大を目指し、転換を急いだ。

石川進造展「旅のスケッチ万華鏡Ⅱ」

葛飾支部の(株)ヒキネ元会長の石川進造氏の個展「旅のスケッチ万華鏡Ⅱ」が1月16日～22日(月～日)銀座の渋谷画廊で開かれ、大勢の来場者で賑った。

個展案内に「ペンと水彩で描く旅の記憶」とあるように、昨年5月に初めての個展を終えて、6月から真夏を思わせるスペインのマドリット、セゴビア、アビア、トレドなど各地を訪ね歩いて風景画を描き、さらに濃厚な緑と赤土の色鮮やかな雨季のカンボジア・アンコールワット、秋の気配ただよう8月の蓼科、10月の野菜の収穫祭までの5ヶ月に描いた作品40点とスケッチなどを展示した。

絵の書き方は、まずペンで下書きをして、後から水彩絵の具で色をつけて完成させる。スペインの作品ではトレドの町の全景画が大作である。「数年前に中世の町トレドを望むバラドール(国営歴史的ホテル)に泊まり、スケッチを試みたが、景色が大き過ぎて断念した。今回は描くことができた。丸々2日間をかけて熱中症になりながら下絵を描

きあげた。日陰のない展望台は昼過ぎには40度ぐらいになり、灼けた石畳から熱風が湧き上がる」と作品に説明を付けている。また、カンボジアのアンコールワットでは観光客のめったに来ない静かな密林の中まで踏み込んで「バリライのナーガ」などを描いている。一方国内では、四万温泉の日向見薬師堂や真っ赤な林檎に真っ白な雪とそのコントラストが鮮やかな青森の雪の林檎園などの作品が注目を集めていた。

石川氏と絵との関係は「高校時代まで油絵を描いていたが、仕事についてからは絵を描く機会を失い、2002年に“絵を描きたい貴方へ”(永沢まこと著)と出会い、永沢先生の指導を受けて再び筆をとることになった」という。今回の個展では作品と作品を絵はがきにしたもの販売、「絵を見て喜んで頂き、ほとんどの作品が売れた」この売上の一部をカンボジアの地雷被害の子供達に寄付するという。今後も世界各地を旅して歩き絵を描いて個展を開くという。



(大作「トレドの町」と石川氏)

都内中小企業の事業資金に関する調査結果

東京都産業労働局調査

東京都産業労働局はこのほど「都内中小企業の事業資金に関する調査」結果を発表した。それによると、取引金融機関の借入や返済に対する姿勢は平成10年3月の調査開始以降最も良好な状況となったという。調査結果の概要は次のとおり。

1. 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢

主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢を借入・返済D I(「緩やか」—「厳しい」)でみると、+26.1と前回調査(平成17年5月)に比べ6.8ポイント増加した。平成15年8月から緩和傾向にあり、平成10年3月の調査開始以降では、最も良好な水準にある。業種別にみても、全ての業種でD Iが増加した。サービス業は10.1ポイント増加して+20.7、製造業は8.8ポイント増加し+39.7、卸売業も5.3ポイント増加して+26.6である。ただ、小売業は1.3ポイントと小幅な増加にとどまり、他の3業種に比べ緩和度合いが低い。規模別にみると、とりわけ中小規模のD Iは13.9ポイント増加の+23.0と緩和度合いが高くなっている。また、小規模のD Iが1.3ポイント増加の+4.7にとどまったのに対し、大規模のD Iは10.4ポイント増加の+57.1となり、規模が大きくなるほど姿勢が緩和する傾向が強まっている。

2. 主な取引金融機関からの借入金利について

(1)金利の傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が前回調査から5.0ポイント増加の68.4%となり、さらに金利の安定化が進んでいる。業種別にみると、小売業では「低下」の企業割合は4.0%、サービス業は5.4%であり、両業種とも低い。また、規模別にみると、大規模では「低下」の企業割合は前回調査に比べて減少したものの、11.7%と他の規模よりも依然として高い。

(2)最近の借入金利

最近の借入金利(3年超5年以下)をみると、「2%台」が最も多く41.8%、次いで「1%台」

が26.8%、「3%台」が20.9%と続いている。業種別にみると、製造業、卸売業では「1%台」の割合が約3割であるのに対し、小売業は2割弱と低い。規模別にみると、大規模では「1%台」が5割を超える一方で小規模、中小規模は1割台と、規模による借入金利の差が顕著に表れている。特に小規模では「5%以上」が8.8%と、高い金利で借入をしている企業割合が高い。

3. 今後の資金需要について

(1)資金需要の増減

今後の資金需要は、全体では「横ばい」が最も高く50.9%、「増加」と「やや増加」の合計(以下、「需要増加」)は32.0%、「減少」と「やや減少」の合計(以下、「需要減少」)は17.1%であり、「需要増加」の割合の方が高い。業種別にみると、小売業は他の業種と比較して「需要増加」が最も少なく、「需要減少」が最も多いのが特徴である。規模別にみると、大規模では「需要減少」が11.1%で他の規模よりかなり低くなっている。

(2)増加分の資金使途(複数回答)

「需要増加」企業に、その増加分の使途について質問したところ、全体では「運転」資金が約8割、「設備」資金が約3割であった。規模別にみると、規模が小さくなるほど「運転」資金の割合が高くなり、小規模では89.0%を占めている。一方、「設備」資金は規模が大きくなるほど割合が高くなり、大規模では47.9%に達している。

(3)増加分の資金手当(複数回答)

「需要増加」企業に、増加分の資金手当について質問したところ、全体では「借入(融資)」が約7割、「自己資金」が約3割、役員借入等の「借入(その他)」が約1割、「社債」は1%程度であった。規模別にみると、金融機関の姿勢が緩やかで、借入金利が有利な大規模では「借入(融資)」が高い。一方、小規模においては「借入(融資)」は若干低く、「自己資金」と「借入(その他)」の割合が他に比べて高くなっている。

大田支部の巻 “日独もし戦わば”

石川貞行(大田支部)

前回までのあらすじ

第二次大戦当時におけるドイツと日本ではどちらが強かったかの仮想戦を展開しています。ドイツをアジアに持ってきて当時の情勢の中でシミュレーションしてみました。戦後において敗戦というショックの中で、戦前の日本の実力がやや過小評価されているくらいがあります。過大に評価する必要はありませんが、違う視点からも見つめてみてはどうでしょうか。

さて、ドイツは中国に侵攻し、日本領土だった朝鮮を占領した。九州上陸の前哨戦として航空決戦をおこなったが、決定的な損害を与える事はできずにいた。

上陸用の船舶不足に悩むドイツ軍が対馬を占領するためについた作戦とは、世界史上、未だ類例のない空挺部隊中心の一大侵攻作戦であつた。

対馬空挺作戦

対馬をやや大きな地図でみるとひとつの大きな島に見える。だが、詳細に眺めてみると上島と下島の二つの島からなる小さな列島である。二つの島を結ぶ中間地点には浅茅(あそう)湾という周囲を山々に囲まれた静かな湾がある。その周囲は典型的なリアス式海岸で、入江は複雑に入り組んでいる。現在の対馬市は列島中心部のやや南側、下島の北部に位置し、平成十六年に六町が合併した新しい市である。この時代に対馬市はない。都道府県では長崎県に属する。

古来、対馬の地は大陸と日本列島を結ぶ点として重要な位置にある。いわゆる地政学上の要地である。元寇にしてもしかり。秀吉による文禄の役にしても北九州の名護屋城がつとに有名となっているが、朝鮮半島へ向かう場合には壱岐・対馬を経由することは当然の帰結であった。

単純な距離に換算すると対馬北端から朝鮮半島までは西水道を通って約 50km。一方、対馬南端から福岡までは東水道を通って約 130km あり、約倍の距離となる。晴天の時には対馬から朝鮮半島をうっすらと見ることもできる距離なのである。

明治二十年以降、日本はこの対馬の地を大陸への足がかり、また通商の防衛として要塞化し続けてきた。特に最北端の「豊」にはワシントン軍縮条約で廃艦と決まった戦艦「土佐」の 40cm 主砲が要塞砲として設置されていた。その有効射程は約三万メートルに及び、艦船の通過に脅威を与えていた。

さらに東西の両水道には機雷が敷設され、艦船の通過をさらに困難なものとしていた。前年には二つの飛行場が完成し、防空体制も整ったかに見えたが、ドイツ空軍による連日の空襲により壊滅的な被害を被り、この時期には作戦可能な航空機は皆無となっていた。

1940 年 10 月 20 日払暁、ドイツ軍第七航空(落下傘)師団の 1 万 4000 人はローマ神話の商業の神から名づけた「メルクーラ」とされた対馬への降下作戦を開始した。

落下部隊は三隊に分かれ各々が豊・竹敷・竜ヶ崎へと降下した。豊には40cm要塞砲があり、竹敷には対罵飛行場、竜ヶ崎には30cm要塞砲と南飛行場がある。それらの降下部隊はそれら要地の占領を主目標としていた。特に竹敷にある飛行場については重点がおかれていた。これは飛行場を占領し、これをを利用してグライダー部隊さらには整備が出来次第輸送機による増援および物資の補給をおこなうことが当初からの目的であったからである。

第二目標としては豊の要塞砲が設定されていた。この要塞砲が沈黙すれば西水道の航行が可能になり、輸送船による部隊および物資の陸揚げが可能となるためである。

ドイツ軍はこれらの要所を占領するのに一週間の期間で充分であると想定していた。

一方、海上では日本海軍を対馬から引き離すために作戦の二日前に新鋭の高速戦艦「シャルンホルスト」「グナイゼナウ」とポケット戦艦の三隻が出港していた。目的は南方における通商破壊作戦と喧伝されていた。南方の物資補給ルートを脅かされれば島国日本の生命線が絶たれる。日本海軍はこれをなんとしても阻止するために出撃せざるを得なかった。このためこの作戦初期においては日本海軍の活躍はほとんど見られない結果となった。

降下作戦自体は奇襲となったことや対空砲火が事前の航空攻撃により制圧されていたこともあり、ある程度の成功を収めた。しかし、それに続く地上戦においては日本軍の激しい抵抗にあうことになる。初日こそは奇襲によるパニックで組織だった抵抗ができなかつた日本軍も、翌日には頑強な抵抗を示し始めていた。地形的に平坦なところが少なく、全島が起伏に富んだ地形であるため防御戦には好都合であったこともあるが、ドイツ軍にとって降下部隊だけでは軽装備な火器での戦闘を余儀なくされており、優勢な車両や火砲を戦闘に投入できない事が大きな誤算となつた。

火砲についてはドイツ空軍がその不足を補う役目を担っていたが、華々しい活躍はできなかつた。この作戦に合わせて開発を進めていたメッサーシュミット Me109E-7 には航続距離の増加させるために300リットル増槽が胴体下部に取り付けられるように改造されたのだが、初期トラブル(主に燃料漏れ)が続発し、十分に活用できなかつたことが大きな原因とされている。

さらに空軍についていえば、日本軍のその陸軍・海軍の爆撃機を投入し、地上戦に介入させた事もドイツ軍の進撃に大きな障害となつた。戦闘は膠着状態に入り、持久戦の様相を呈してきた。

もともと短期決戦を念頭に置いたドイツ軍では補給が大きな問題として浮上してきた。ほとんどはパラシュートによる空輸に依存したが、この時期の日本海の悪天候に阻まれ、実際の地上軍に届いたのは半分以下と言われている。補給不足による食料事情の悪化や武器・弾薬不足によりドイツ軍の戦闘力は確実に低下してた。

10月30日までに対馬飛行場の占領に成功したものの降下猟兵の損害はすさまじく、死傷者は30%を越えていた。対馬がドイツ落下傘部隊の墓場といわれた所以である。これ以後、ヒトラーは降下猟兵単独の作戦は時代遅れと考え、作戦構想から完全に排除した。

11月、ドイツ軍は山岳師団を乗せたグライダー部隊が対馬飛行場へ強行着陸を敢行し、地上部隊の増援と補給を与える事に成功したが、大規模な攻勢に転じるには重火器の支援が必要だった。

対馬沖夜戦

11月18日、ドイツ海軍はまたしても主力の戦艦5隻を、旅順港から出港させた。前回同様、表向きは通商破壊だが、主目的は日本艦隊の誘致にある。旗艦「シャルンホルスト」上のマルシャル提督には黄海を無事に通過し東シナ海に抜けられた場合にのみ通商破壊活動に従事することと通達されていた。

翌19日、重巡洋艦「アドミラル・ヒッパ」「ブリュッヒャー」「プリンツ・オイゲン」の3隻は駆逐艦4隻を伴い、輸送艦5隻を対馬の浅茅湾まで護衛する任務のため出撃した。指揮官はオスカル・クメッツ少将で旗艦は「ブリュッヒャー」である。輸送船にはドイツ陸軍自慢の戦車・装甲車・重砲などが積載され、対馬での一大攻勢をおこなうための部隊・装備が整っていた。戦力的にはこちらの艦隊のほうが劣るが「ヴェーゼル演習」と名づけられた今回の作戦の主役はまさにこちらの艦隊であった。この戦力が対馬に上陸すれば対馬の日本軍はものの見事に駆逐されてしまうであろう。そして飛行場を整備し、次はいよいよ九州本土への上陸作戦となる。

連合艦隊司令官山本五十六はドイツ艦隊出撃の報を受けただちに水上艦艇に出撃命令を下した。前回は通商破壊を断念させたもののドイツ艦隊に一矢も報うことができず、みすみす逃してしまったことで陸軍との関係が険悪化してしまっていた。今回の敵艦隊は必ず捕捉し、撃破しなければ日本の生命線は全く保証できないものになってしまう。出撃した艦隊は戦艦部隊を中心とした第一艦隊、巡洋艦部隊中心の第二艦隊、さらに空母を中心とした第一航空艦隊とほとんど全ての艦艇となった。ただし、山本長官直卒の第一戦隊(長門・陸奥)は呉にとどまった。

敵艦隊は戦艦主力の第一艦隊より速度において優り、第一艦隊が敵を捕捉することは不可能と思えたが、航空艦隊による航空攻撃と高速の巡洋艦主力の第二艦隊による先制攻撃で損害を与える事ができれば、捕捉・撃滅は可能だった。心配事としては第二艦隊では砲撃力で圧倒的に劣勢にたたされることであった。そのため、空母による航空攻撃が第一撃として重要な鍵を握ることになる。

21日、上海と濟州島のほぼ中央付近を航行中のマルシャル提督は日本の偵察機に発見された。提督は初期の打ち合わせ通り、艦隊を反転させ北上、帰途についた。

「敵機ト遭遇。帰投ス」

この無電はオスカル・クメッツ少将の「ブリュッヒャー」でも受信した。

「作戦通り。日本軍主力はマルシャルの艦隊に釘付けだ。戦闘としてはおもしろくないが、輸送任務を終えたら帰還するだけだ」

午後8時。

「敵艦影！九時の方向。距離一万。速度20ノット。同行」

旗艦「足柄」艦上で第三艦隊司令官高橋伊望中将のもとに情報が入った。対馬近海を防衛のため航行していた第三艦隊が敵を発見した瞬間だった。

「左魚雷戦同行！」

第三艦隊は重巡「足柄」を旗艦に軽巡「長良」「球磨」それに第五水雷戦隊の快巡「名取」および第二十二駆逐隊の駆逐艦4隻からなる部隊である。巡洋艦4隻に駆逐艦4隻といえば

かなりの戦力に聞こえるが、実際は旗艦「足柄」以外は大正年間に造られたやや旧式な艦で第二戦級の戦力といえる。まともに砲撃戦をおこなえばドイツの新型重巡洋艦3隻に対抗できるとは思えなかった。だが、夜戦となれば話は別である。夜戦のために特別な訓練を施された日本海軍の水雷戦隊は一万メートルを越える距離で目標を捕捉できたという。ドイツ巡洋艦にはこの時期としては先端をゆくレーダーを装備してはいたが、これは対空用のもので対水上用のレーダーは未開発だった。

「ティー！」

艦隊は横一列に並び一斉に魚雷を発射した。この魚雷こそ「日本が世界10年抜いた」という九三式魚雷で、その駆動には空気ではなく、酸素が使われていた。そのため雷跡をほとんど残すことなく駆走し、その炸薬量は500kg。速度・射程距離ともに世界の水準を遥かに凌駕する決戦兵器であった。

「目標到達まであと3分」

魚雷が命中し、その混乱に乗じて砲撃戦を展開する作戦である。

「！」

次の瞬間、信じられない光景が目に入ってきた。

見敵必殺の祈りを込めて放った日本海軍自慢の酸素魚雷が次々と自爆したのである。約4割の魚雷が自爆したが、これは不発を恐れる余り信管を鋭敏にしすぎた結果だった。だが、当事者はすぐにこれに気付かない。すぐさま次の号令が走る。

「左砲艦戦始め！目標先頭艦」

一方、「ブリュッヒャー」ではいきなり右舷海面から激しい水柱が幾本も立ち上がったものだから驚愕した。反射的に号令が飛び交う。

「取り舵一杯！両弦全速！」

「敵の確認急げ！」

日本軍の新兵器か？それとも夜間爆撃か？その疑問に対する答えはすぐに返ってきた。「右舷に閃光！多数！」

「砲撃です！」

まもなく、旗艦「足柄」の探照灯が「ブリュッヒャー」の船体を真っ暗な海面に浮かび上がらせた。

この原稿を書いている時点では日本経済は緩やかな回復基調にあるという報道がなされています。東証平均株価も、1万6000円台になり、ミニバブルという形容もちらほら聞こえてきました。ホリエモン騒動で一時的な株価の下がりも上昇に転じ、書き始めた二年前とは大きな差を感じます。もともとは「頑張れ！日本！」という意味合いで書き始めたものなのですが。



権 八

板倉富美子(城南支部)

西麻布の交差点の角に位置する権八は、ご記憶の方もいらっしゃるかと思いますが、前回、アメリカのブッシュ大統領が来日の折、小泉純一郎首相がご案内した庶民的な居酒屋です。吹き抜けの二階から店内のお客の皆さんに手を振ってブッシュ大統領が挨拶をされている映像がテレビに写しされていました。そのお二人の後に書の四曲屏風が配置されているのが気になって、どんなお店か、どんな屏風か、この目で見たくなりお店を探して行ってみました。

屏風は日本的な雰囲気を出す為の演出と、おもてなしの一つとして、その時だけ使用したもののように残念ながら屏風は拝見する事はできませんでした。

お店の紹介が後になりましたが、外観はお城のような石垣造り、店内はぬくもりの木造り、石臼がそば粉を蒸き、田舎づくりの和風を強調しています。店内中央には串焼きの炉があり、カウンターテーブルが並んでいます。

側面には、バーカウンターもあり飲み物もいろいろ揃っています。

気になるお値段は一品料理のほか、¥3500、¥4500、¥6000、のコース料理も楽しめます。



(石臼)



(ブッシュ大統領のサイン)

料理が出来上がるとフードアップと言い、ウェイター、ウェイトレスは皆で、イエスと英語で返事をする、少し変わった和風レストランとしておすすめです。

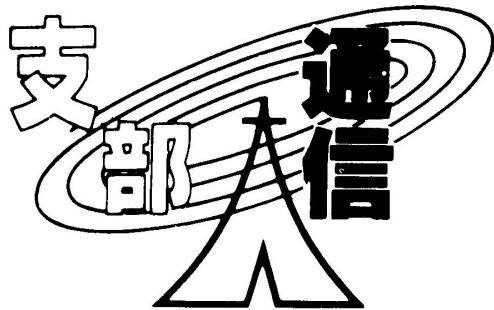
「いらっしゃいませ」と若い人達が大きな声で出迎えてくれます。

「権八」 〒106-0031 港区西麻布 1-13-1

TEL 5771-0170

営業時間 AM11:30～AM5:00

<http://www.global-dining.com/>



■大田支部

忘年会

大田支部（佐藤支部長）は12月17日（土）に浜松町竹芝にある「銀座アスター」にて忘年会をおこないました。例年は大森・蒲田といった地域に根ざした場所での忘年会だったのですが、今年は気分一新。入内島副事業部長の発案により24Fという高所から東京湾を一望できるロケーションを求め、この場所に決定いたしました。開宴の18時というと、ちょうど夜の帳が辺りを包み、遠景に望むライトアップされた東京タワーが見る人の驚嘆を誘います。ここで記念の写真をパチリ。ちょっと暗すぎてうまく写っていないかもしれません。残念！撮影後に司会の池田氏の開会宣言となりました。佐藤支部長よりこの地が選定された理由等の説明後、来年に予定している川上副理事長の表彰記念式典等の説明がなされました。続きまして今話題に上った川上副理事長より来賓の挨拶が述べられました。環境問題としては亜鉛・ホウ素という二大元素の規制の件。いつもいつも私たち

のために有難うございます。ここで予定通りに乾杯の準備が整いましたので、さっそく内藤顧問による乾杯音頭の発声となり、開宴となりました。

中華料理なのですが、円卓ではないため個々に一皿ずつ料理が盛られてきます。飲み物は、やはり中華料理ということで紹興酒を選ばれる方が多いようです。お店からは「是非、常温で召し上がって欲しい」という要望もあり、今夜は皆さんそろって常温の紹興酒で楽しみました。

宴もたけなわにさしかかろうという折に突然某氏が倒れる、という緊急事態になりました。過労に持病の貧血が原因も様子で会場内は一瞬不安な空気が流れました。出席していた会員の中に消防団員の心得を持つ人が居合わせていて、適切な処置が施され、無事に救急隊員へバトンタッチ。後日聞き及んだところ「たいしたことなく、無事に帰宅できた」とのことでした。関係者やお店の方々いろいろお世話様でした。ハプニングはありましたが時間は刻々と経過してまいります。中締めとして大沢理事による挨拶がありました。その後にもデザートを楽しみ、充分と満喫し、帰路につきました。

（石川貞行）



■中央支部

食事会

中央支部(木下好雄支部長)は、さる 1月 27 日夕、上野東天紅地下海燕亭にて、食事会を開催し、支部員 20 名が参加した。



まず、新井富保副支部長の司会により、木下支部長より、「皆様、お忙しい中、この食事会に多数ご出席いただき、御礼申し上げる。鍔金に限らず、色々な事故がここのあるが、下水道局さんより、このような時の連絡網整備について、お話があるので、万障繩り合わせてご出席いただきたい。昨年支部新年会を行わずに行ったこの海燕亭での食事会が、支部員の皆様から大変好評だったので、役員全員一致でここで行うことにしました。昨年同様おおいに楽しく騒いでいただきたい。」との挨拶があり、東松国雄顧問の乾杯により宴の幕は開けられた。

いつもの中華料理とは全く違う海燕亭の懐石料理に舌鼓を打ちながら、お座敷の雰囲気で日頃の仲間と、一層の親睦を深め合うことができたのではないだろうか。

楽しい時は瞬く間に過ぎ、内山弘一顧問の手締めで会を終了した。

(文 堀江 清)

■城南連合支部

新年会

城南連合支部(若山満城南支部長、藤田直人品川支部長、佐藤富幸大田支部長)は2月4日(土)午後6時から熱海の南明ホテルで、3支部から40名が参加して平成18年新年会を開催した。

葛西康二事務局長の司会で「1月に本部新年会が行われ、城南連合の新年会にどれくらい集まるか心配したが、大勢の参加を頂き感謝申し上げる。本部新年会は400名近く集まり業界の団結力を内外にアピール出来たと思うが、それに比べるとこの席は若干華々しさに欠けるが、みなさんの協力により盛り上げて頂きたい」と開会の挨拶をした。



三支部を代表して、藤田直人品川支部長は「昨年は本部の新年会の関係から城南連合の新年会を中止したが、今年はやらせて頂いた。出来れば本部の新年会を2年に1回にして頂き、支部と交互に開催出来るようにしてほしいと思う。また、前回当ホテルを使って料理が良くないと批判があったので、今回はホテル側も



張り切っており期待できると思う。城南支部と品川支部の統合について、今年の本部総代会での承認、支部の総会での承認を頂いて来年の総会で統合する予定であり、「ご理解をお願いしたい」と挨拶をした。

来賓として、大村功作理事長は「今日は立春で全ての生物が動き始めるそうだが、大変に寒い日となった。平素は組合活動にご協力を賜り感謝申し上げる。藤田支部長から支部統合の話があつたが、将来支部組織をどうするか検討課題である。昨年の全国大会でも環境との共生が取り上げられたが、これから環境問題を無視してやっていくことは出来ず積極的に取り組んでいきたい。昨年末、経産省から予算計上の話があり、今年に入つて東京都環境局からも土壤汚染問題で予算計上の話があり、どういう方向で取り組んでいいのか考えていかなければならないが、私が全鍍連会長の任期中には方向付けを行いたいと考えている。また本部新年会の隔年開催の話があつたが、

難題を抱える当業界にとっては毎年の開催が絶対必要でありご理解を頂きたい」と挨拶した。



原清一品川副支部長の閉会の辞をもつて一部式典を終了、引続き二部懇親会に移り植木謙一事業部長の司会により、草間英一顧問の乾杯の発声で祝宴に入った。懇親会は下田幸作相談役の中締めまでなごやかに進められた。



東京都中小企業の景況(1月調査) 東京都産業労働局商工部

◎都内中小企業の業況 DI は 5 ヶ月連続の増加に加え増加幅が拡大し、回復の動きに力強さが加わっている。前年同月比売上高 DI は製造業、卸売業、小売業が増加し、サービス業が横ばいに推移した。今後 3 ヶ月の見通し DI は 5 ヶ月連続の増加で、改善傾向が続くと見込んでいる。

○12 月の都内中小企業の業況 DI は▲25(前月▲29)と前月比 4 ポイント増加し、5 ヶ月連続の増加に加え増加幅が拡大し、回復の動きに力強さが加わっている。業種別にみると、製造業は▲19(同▲24)と前月比 5 ポイント増加し、4 ヶ月連続の増加で改善が進んだ。卸売業は▲20(同▲28)と前月比 8 ポイント増加し、改善となった。小売業は▲46(同▲42)と前月比 4 ポイント減少し、2 ヶ月連続の改善からやや悪化した。

業種区別にみると、製造業では印刷、製本が好調なこともあり「紙・印刷」が大きく改善した。卸売業では機械工具、金属加工機械器具などが順調で「機械器具」は平成 16 年 7 月以来のプラスとなった。小売業では「日用雑貨」以外の全業種区分で悪化した。

○前年同月比の売上高 DI は▲25(前月▲29)と前月比 4 ポイント増加し、5 ヶ月連続の増加で売上面でも改善が続いている。業種別では、製造業と卸売業が前月比 5 ポイント増加し、ともに改善した。小売業は前月比 4 ポイント増加し、やや改善。サービス業は連続の横ばいであった。

○当月と比べた今後 3 ヶ月(平成 18 年 1~3 月)の業況見通し DI は▲9(前月▲11)と前月比 2 ポイント増加し、5 ヶ月連続の増加でマイナス 1 衍台となり、改善傾向が続くと見込んでいる。業種別では、卸売業が前月比 6 ポイント増加し、明るさを増している。製造業、小売業、サービス業はほぼ横ばいで、いずれも見方を変えていない。

編集後記

カメラの世界がデジタルカメラの普及に伴い劇的に変化している。これほど変化するとは数年前まで誰も予想できなかつたのではないか。カメラの老舗コニカミノルタがカメラ事業から完全撤退を表明して驚かせたが、他の大手メーカー各社もフィルムカメラ事業の大幅縮小を決めている。フィルムカメラの出荷台数はここ 2~3 年で数分の 1 になったという。当然フィルムカメラが売れなければフィルムの需要も少なくなり、大手フィルムメーカーも事業の大幅な縮小と共に大規模な人員削減を余儀なくされている。通信手段の主流が携帯電話になったように、カメラもデジタルを中心となり、フィルムカメラはマニアのためのものになっていくようである。

広報 2 月号

印 刷 平成 18 年 2 月 15 日
発 行 平成 18 年 2 月 15 日
(毎月 1 回 20 日発行 第 39 卷第 2 号)
発行所 東京都鍍金工業組合
〒113- 東京鍍金公害防止協同組合
0034 東京都文京区湯島 1-11-10
Tel 03(3814)5621 FAX 03(3816)6166
発行責任者 大村 功作
編集責任者 神谷 博行
印刷 スザキ企画 Tel 047(338)1222
〒272-0802 市川市柏井町 2-1419-4
定 価 500 円